申込事業計画説明及び質疑応答まとめ

(1) 地下鉄とバスを利用した逸品探し街歩き体験ゲーム

【プレゼン概要】

東日本大震災において甚大な被害があった若林区荒浜地区の震災遺構の見学を通して、津波の脅威や教訓を後世に伝えている施設を参加者に見学してもらい、若林区が震災と密接につながっている区であることをわかってもらうことを目的とし、これまでの経験値を活かしたゲーム体験を取り入れながら、「バスを利用した逸品探し街歩き体験ゲーム～震災遺構仙台市立荒浜小学校の見学を兼ねて～」を開催する。また、これまでの地下鉄を利用した逸品探し街歩きゲームも継続開催する。

【質疑概要】

Q　大内さん以外の農家で協力してくれる方はいるのか。また、7 月と 11 月に開催するとのことだが、農家は 7 月は繁忙期、11 月は端境期となっているが何故この時期に設定したのか。

A　確約している農家は大内さんのみである。今後、もろやキッチンファームさん、七郷キッチンさん経由で農家をご紹介頂くか、ReRoots さん経由で、新規就農された農家（平松農園さん等）にもアプローチしていきたいと考えている。また、大内さんも昔からの農家なので、そこからの紹介も考えている。開催時期については、ご指摘頂いた内容について再度検討した上で開催したいと思う。

意見　土曜日という設定であるが、農業園芸センターも JR フルーツパークも土日はとても混雑しているので、せっかく行っても参加者が何もできなかった等ならないように配慮願いたい。

Q　広報について、今までは小学校に配布して参加者を募っていたようであるが、レスポンス率はどの程度なのか。また、今回も昨年度と同じ小学校に配布するのか。

A　レスポンス率については、過去 2 回の結果に基づくと、1 小学校当たり 4～5 組ほどの応募がある。地下鉄沿線の小学校だと参加しやすいため、レスポンス率が高い。地下鉄沿線から離れた小学校になると、1 組の応募という学校もあった。今後の狙い目は、青葉区の仙台駅周辺の小学校に配ろうと思っている。ただ、前回のアンケートで、バスの荒浜編に参加したいかとの問いに、3 割の方から参加したいとの回答があったため、過去の参加者への声がけを優先しようと思っている。

Q　六郷市民センターの館長さんにはご協力頂いているようであるが、七郷市民センターに協力をもらうことは考えているか。

A　今後ご協力いただきたいと思っている。

Q　今年度で 3 年目となるが、今年度検証したいことは何か。また、今後の継続性についてはどのようにお考えか。

A　今年度検証したい点は、前回の 5 回目のときに 70 名ほどの応募があったので、反応の良さが今後も継続したときにあるのかという点である。というのも、今後継続してやっていくひとつの方法として、企業からの協賛広告を考えているので、集客できるイベントだという実績を積みたいと考えている。

(2) あらい七夕プロジェクト

【プレゼン概要】

荒井駅周辺に、地域の子どもたちや地域に関わりのある人たちが作成した七夕飾りを展示し、地域内外の人たちに七夕飾りを見てもらい同時にまち歩きをしてもらう。また、若者を中心にまち歩きをおこない、まち歩き用の資料（まち歩きヒント・ペーパー）を作成する。実際に「まち」を見てもらうことで、若者の視点で地域の魅力を発信する。

【質疑概要】

Q　まちづくりペーパーの構成について、サイズ、ページ数、枚数はどのように考えているか。

A　まち歩きペーパーに関しては、持って歩けるように A3 サイズの 1 枚で片面刷りとする。内容については、学生の方たちと相談して決めるので具体的には決まっていない。想定枚数についても、具体的には決まっていないが 1,000 枚は刷りたいと思っている。初めてのことなので、印刷費にどのくらいかかるのかがわからず、多めに概算で出した額を収支予算書には記載している。

Q　七夕飾りに係る費用がかなり少なく見積もられているが、これは協力欄に名前のある鳴海屋紙商事さんに材料を提供して頂く前提でこの金額になっているのか。また、イベント用コロナ感染対策費 50,000 円について、具体的な内訳を教えていただきたい。

A　鳴海屋紙商事さんには、七夕飾りについてボランティアで相談に乗っていただけるとの話になっている。材料費に関しては、ご協力頂くだけではなく、ご相談させていただきながら購入したいと思っているので、実際かかる額は変わってくるかもしれない。コロナ対策費に関しては、まち歩きイベントを、だいたい 5 か所を会場にして開催したいと考えており、なるべく多くの場所にアルコール消毒液を設置したいので、各箇所に 1 万円ずつ使いたいと思っている。

意見　予算あってのものなので、例えばまちづくりペーパーも見積りを取る等して、もう少し細部まで予算を組み立てていくと、実現性が出てくると思う。

Q　5 箇所でのイベント開催を計画されているとのことだが、その開催費用が収支予算書に計上されていないのは何故か。

A　お金をかけずに細く長くできるものをやりたいと思っているので、協賛というかたちになるかはわからないが、会場にご協力いただいて、会場費はなしでやりたいと思っている。

Q　七夕飾りはどこにどのくらい飾る予定か。また、七夕飾りを見に来た人たちの会話や交流が生まれる機会をつくりたいとのことだが、そのための仕掛けのようなものは考えているのか。

A　飾りについては、鳴海屋紙商事さんと現地を訪問して、見栄えなどを相談しながら考えたいと思っている。各町内会の子供会や婦人会でも、七夕飾りを作っているということを聞いたので、まち歩きの際に、各町内会で展示している場所にも人が回れるような工夫をしていきたい。仕掛けづくりは、まち歩きペーパーのほうに盛り込んでいきたいと思っている。長く住んでいる方から話を聞くと、何でもないものだけど聞いたら気になるようなものが道々にたくさんあったので、そのような情報を加えていきたい。

Ｑ　まち歩きマップのようなものがいくつもあることを分かった上で、今回新たにまち歩きペーパーを作ろうとなったのであれば、どういう目的で、どういうコンテンツで、何部程度刷って、だいたい何人くらいに来てほしいという構想を考えていらっしゃると思うが、その点をもう少しご説明していただけると、予算のほうも考えやすくなると思うがいかがか。

Ａ　予算の内訳については、そこまで詳細に考えていなかったので、再度精査しなければならないところだと思っている。まち歩きペーパーについては、純粋にまち歩きのためのマップを作ろうというところから始まったが、やはりどのマップも、史跡やお店の情報がベースだったので、地域の良さを伝えるものを作りたいという方針になった。お店の情報などの、行けば見れる情報ではなく、その土地の面白さや、昔が見えてくるような情報を載せて差別化を図りたいと考えている。部数に関しては、昨年度３回まち歩きイベントをして、大体 600～700 名程の方がいらっしゃっていたので、その程度は刷れるといいなとは考えているが、ざっくりしたイメージで計算してしまっていたので、もう一度精査し直したい。

Ｑ　年間を通じて交流人口を増やしたいとのことでありながら、七夕に絞ったのはなぜか。

Ａ　地域の方から、七夕をやりたいとのお声を頂いたのと、七夕は一過性のものではなく、ずっと地域で続けていける行事なので、定着させるにはとてもいい素材だと思った。

Ｑ　設置イメージを見ると、駅や公共施設を想定しているようであるが、実際にご協力はいただけるのか。

Ａ　設置場所の第一希望は駅や駅周辺の道なので、仙台市や若林区と交渉が必要になってくるとは思っている。もし難しいとなった場合には、駅周辺の商業施設にご協力をいただくことも検討している。

Ｑ　まち歩きペーパーを作る若者はどのくらいの人数が協力してくれるのか。

Ａ　仙台市の若者ラボに相談した際に、まちのＰＲをするために活動している団体（メンバー５名）がいたので、そちらにお声がけをさせていただきたいと思っている。また、町内会からジュニアリーダー、シニアリーダーがいるという話も聞いているので、そういった方々にもご協力いただけたらと思っている。

(3) 連坊オモシロ街あるき

【プレゼン概要】

連坊の魅力を発信し、来訪者を増やしていくことを目的に、連坊の歴史資産を活用した街あるき及び動画コンテンツの制作を行う。街あるきについては、１回あたり参加者１５名で年７回の街歩きを実施する。連坊の商店や歴史など普段気づかない場所や名所を紹介する。また、団体と有志で動画制作を行い、連坊の地域資産活用として今後にも活かされるよう、YouTube で公開する。

【質疑概要】

Q　スケジュールを見ると、街あるきの回数を非常に多く設定しているので、事務局側の体力が持つのかが心配になった。また、街あるきや座学をその場にいた人だけが学べるのではなく、さらにそれを共有して広げていくための工夫も必要な部分であるため、街歩きや座学を運営していく部隊と、記録して発信していく部隊の両輪でやっていく必要があると感じるが、実施体制についてはどのようにお考えか。

A　街あるきの回数については、昨年も計 7 回実施したので今回も大丈夫だと思う。実施体制については、今後の課題として受け止め、今後意識して撮影の体制を強化していきたいと思っている。

Q　講師によって、謝金の金額に開きがあるのはどういった理由か。

A　座学の謝金については、西大立目さんには最初から 1 万円でお願いしており、その後佐藤さん、菅野さんにも 1 万円程度と思って打診したところ、3 万円という金額を提示されたため、このような金額の開きが出てしまった。街あるきガイドの謝金に関しても同様の理由である。西大立目さんにもう少しお支払いしたいと思っている。

Q　町内会に回覧やチラシを回したいとのことであるが、収支予算書の支出の部にチラシ制作費の記載がないのはなぜか。

A　抜けてしまっていたので、修正したい

意見　保険料が 500 円となっているが、他団体では 100 円の保険をつかっているところもあるため、その辺の予算を上手く使って講師謝礼やチラシ制作費に充てるとよろしいのではないか。

A　保険については、他の安い保険も検討したが、安い保険だとその分補償される金額が少なく、実際に参加者がケガをされた際に心もとないので、この保険で行きたいと思っている。20 名以上になると、補償内容は変わらないまま保険料が安くなるが、あまり人数を増やすとガイドの話が聞こえないとの意見も出てくるので、工夫していきたい。

意見　動画制作アドバイス料については、その人個人に技術として伝わるという点で、一般的には受益者負担になるものである。今回、せっかくこのような機会があるので、連坊商興会青年部さんの資産として残していけるよう、記録をする際などに、何らかのかたちで団体の中で蓄積されるようなことをされるといいと思う。

(4) 貞山運河の魅力アップ事業

【プレゼン概要】

貞山運河を観光資源として有効活用し、人を呼びこみ、地域の魅力向上を図ることを目的に、貞山運河で曳き舟体験及び歴史・芸術に触れあう文化祭（ポエムツアー）を開催する。また、沿岸部を訪れる方々に活用していただけるよう、閖上から蒲生までのマップを制作する。

【質疑概要】

Q　曳き舟のコースや、安全性についてお伺いしたい。

A　曳き舟のコースは、センターハウス～深沼橋を想定している。安全面については、今までやってきた実績もあるので、経験を活かしながら、若い人たちにも協力していただきつつ、十分に配慮して取り組みたいと思っている。

Q　昨年、文化祭で演劇等様々な企画をやられていたが、今回ポエムに絞った理由をお聞かせ願いたい。また、前回の報告会で、1 日開催は大変なので、半日開催にはできないのかとの意見もあったが、今回も 1 日を通しての開催を計画している理由についても併せてお聞かせ願いたい。

A　前回、荒浜まで来て演劇をするということに理解をしていただける方が少なかった。ポエムツアーは、屋外開催が可能で、荒浜の人に話してもらいながら行う予定なので、今回の企画に適している。また、短詩は流行っており、活動人口が多いのも選んだ理由のひとつである。今回は午前のみの開催を想定していて、関心のある方のみ、午後の部に参加していただきたいと思っている。

Q　ターゲットはどの年代に絞っているのか。

A　この前ＪＲさんとの企画でＥボートをやった際に、とても人気で、親子の参加が多かったので、今回も親子をターゲットに開催したいと思っている。

Q　昨年度の課題として 1 日のプログラムだと重かったということがあり、今回は午前と午後に分けたとのことであるが、午前中だけでもプログラムが 4 つに増えており、また、2 時間という時間の中で、どのような開催を考えているのか。また、それにしては参加費が抑えめなのが全体の収支計画からも気になった。

A　ポエムツアーは、舟遊びのときに待ち時間が出るので、裏イベントとして考えており、あくまでもＥボートと曳舟をメインに考えている。さくばは怖がって乗らない方もいると思うので、希望者だけに乗ってもらうオプションのような位置づけで考えている。昨年度に子どもも一律 1,000 円の料金設定にしたため、親子での参加は躊躇されたのではないかということもあり、今回の料金設定となった。

Q　マップを 5,000 部作られるとのことであるが、どのような活用を考えているか。

A　まずはアクアイグニスやＪＲフルーツパークなど、沿岸部の施設におきたいと考えている。沿岸部についてわかる資料がほしいと思っている方はたくさんいるので、需要はあると思う。また、単年度ではなく継続して使えるものであるため、十分に活用できると考えている。

Q　市の助成金に頼っている部分がかなり多いと思うが、今後の継続について、世代交代も含めてどのように考えているのか伺いたい。

Ａ　貞山運河倶楽部としては、今までにＪＲフルーツパークや今野不動産等企業からのご協賛をいただいた実績があり、今後も協賛金をもらえるよう頑張っていきたい。また、マップを売るなどして、収益を上げるかたちにしていければいいとは思っている。地域活動はとても大変で、市や銀行の助成金でやっているのが正直なところである。若い人が立ち上がってくれればいいが、若い人は若い人たちで新たな組織を立ち上げるため、組織内での世代交代は難しいのが現状である。

（5）仙台屋台を活用した「集まる場を整える」プロジェクト

【プレゼン概要】

譲り受けた希少な仙台屋台を、仙台市沿岸部の素材を活かしながら参加型ワークショップを通して修繕し、沿岸部を会場にした屋外イベントを行う際の会場拠点として、かつ、この地域の魅力を発信する移動型メディアスタジオとして、屋台を活用することを目的に取り組む。

【質疑概要】

Q　メディアスタジオのイメージがわかりにくいので、説明していただきたい。

A　メディアスタジオの使い方として、例えば、地域で野菜を作っている方をお呼びして、食材を一緒に調理して食べながら食材や地域の話を聞いたり、ハゼ釣りのイベントをするのであれば、講師の方と釣った魚を食べながら地域について語り合うことをイメージしている。テレビ番組のような番組構成にすれば、より楽しめるものになると思う。

Q　修理には、溶接や屋根の設計等特殊技術を必要とすると思うが、安全面は問題ないのか。

A　溶接については、代表の渡邉がもともと整備士だったため、機材もあるので、問題ないと思っている。ワークショップで参加者にやっていただく作業は、より危険が少ないものを考えている。屋根の修繕については、もともと荒浜で創業し、今は卸町にある看板屋さんが我々の趣旨にとても賛同してくれているので、講師としてお呼びして、地域の工場で余っている廃材を使って、修繕したいと考えている。安全面も十分に配慮して取り組む。

Q　ワークショップの参加者はどういった人をターゲットにしているのか。市民活動であるため、普段コアに関わっていらっしゃる方以外も想定しているのか。

A　アウトドア好きな人や工作好きな人を対象にしている。前回、別の事業を開催した際には、チラシをメディアテークや天文台において集客したので、今回の事業についても、チラシおく場所を検討して、効率よく集客したいと考えている。

Q　地域性や、仙台屋台の特徴をワークショップの中でお伝えしたり、考えたりするようなことはお考えか。

A　私（小山田）は建築の仕事をしているので、建築の面から仙台屋台の特徴について勉強をしている部分はあるが、ワークショップの際には、建築以外の面からも詳しい情報を伝えていければいいと思っている。譲っていただいたときに、持ち主の方から、仙台屋台という文化があったということを、何某かのかたちで後世に残していけたらとの話もうかがっているので、そこは大事にしたいと思っている。

Q　番組制作のコンテンツの計画や、構想の部分でイメージしているものがあれば教えてほしい。

A　メンバーの中に、制作も出来る映像のプロがいる。彼と話しているのは、「まずやってみる」ということ。どういった構成にしていくかは、やりながらブラッシュアップしていきたいと考えているが、大事にしたいのはその土地の人と会話をして、我々が見えていない良さを教えていただくこと。また、我々には色々なジャンルの知見があるので、活動の作戦会議の場所にして、会議を配信してみるのもいいのではないかとの話も出ている。会議の配信を見て、興味のある人が増えてくれればいいなと思っている。

Ｑ　この地域で活動されている地域団体にもご協力をいただきながら運営したいとのことであるが、実際にどういう団体と連携していきたいか、構想があればお伺いしたい。

Ａ　まだ打診をしていないので、どうなるかはわからないが、海辺の図書館さんや㈱荒浜アグリーパートナーズさん等、協力しあってきた団体がある。例えば、海辺の図書館はビーチクリーンをされているので、ちょっとしたお茶を配るような場所にできると考えており、平松農園さんであれば、そこの野菜を使った料理をすることもできると考えて居る。また、地域の町内会のお茶っこのときに使っていただいたり、貞山運河倶楽部さんと一緒にイベントを企画するなど、色々と可能性はあると思っている。

Ｑ　㈱めぐみキッチンさんは、どういった方針で設立されたのか。

Ａ　簡単に言うと、集団移転跡地を借りる際に、個人で契約すると、個人に何かあった場合契約が継続できなくなるので、法人にしてはどうかというアドバイスを受け、そのとおりだと思い、法人にした。正直売り上げがそんなにあるわけではないが、長く続けていくということを大事にしたいと思っているので、1 年前に法人化に踏み切った次第である。

（６）動画を切り口としたアーバンキャンパス周辺まちづくりの担い手育成事業

【プレゼン概要】

東北大学五橋キャンパス及びその周辺を学びのフィールドとして、まちづくりに関心のある学生等の若者や地域の方々を発掘し、共に成長していく場を提供することにより、地域や商店街の活性化に寄与することを目的とする。おもに、①動画制作塾②オンライン講座③ＣＭ制作プロジェクトの３つの事業を行う。

【質疑概要】

Ｑ　収支予算書における動画制作塾参加者負担金について、学院大生は無料との記載があるが、他大学の学生が参加される場合にはどのような対応をされるのか教えていただきたい。

Ａ　学院大生に限らず、学生は無料というかたちにしたいと思っている。ただ、優先的に学院大学に話を持っていきたいとは考えている。

意見　受講できる人数が限られているのは理解しているが、学院大生と他大学の学生であまり線引きをしないほうがよろしいかと思われる。

Ａ　令和２年度に事業を行った際にも、そこの線引きはしていなかったので、いろんな人たちが集まってきた。その時はオンラインが中心だったので、東京の大学生が参加したこともあった。

Ｑ　前年度まで行っていた活動の中の、スピンオフ企画のようなものだと受け取った。この助成の目的は基本的にスタートアップというところがあると思う。前３ヵ年の中で、動画のスキルはかなり向上しているのは YouTube 等で拝見していた。その中で、尖らせたい部分ということでこういった企画を出されたかと思うが、今回の申請額の中で 48 万円という金額が謝金に充てられている。謝金に関しては、スキルアップのための経費ということで、一般的には受益者負担となるのが一番に考えられると思うが、その中でこちらの申請に出されたという趣旨をお聞かせ願いたい。

Ａ　確かに動画制作チームはすごく上手くいったが、メンバー7 名だけの知識にしておくのはもったいないと思ったので、今回新たに講座を立ち上げたいと思い申請させていただいた。今回は、今までやってきた講座の受講生たちのスキルをどのように広げていくかというところを、一番に考えている。講師謝金については、回数が多く、また、関わっている期間も長いので、1 回あたりの金額が高いわけではなく、むしろすごく安い金額設定になっている。

意見　まちづくり活動の助成なので、コーディネートする活動に助成をするというのが第一目的ではないと思っている。前回までの 3 年間の活動で身についた動画のスキルを、1 回まとめるというかたちで、動画やコンテンツのようなものにまとめるという整理期間に充てて、例えば、地域の人たちに動画のスキルを伝えるような講座を開くのであれば、荒町全体、仙台全体に広がるようなイメージもつくが、今回の企画の中では、この動画によってどれだけ多くの方にスキルが伝わるのかが見えないように思う。

Ｑ　大学としても地域貢献が責務であり、東北学院大学にも地域連携の予算というものがあると思うので、そのあたりの交渉もされていたのかお聞かせ願いたい。

Ａ　今回初年度ということもあり、モデル事業という風に学院大からは見てもらっている。学院大としても、どういうかたちで我々と組んでやっていけるかということがよくわか

っていない部分があるので、この１年間の事業でどのような連携が出来るのかを見てもらい、2023 年の開校時に、未来の扉センターで一緒に事業をやっていくような流れになればいいと思っている。東北学院大学の地域連携予算については、あまり突っ込んで聞いてはいないが、以前、「荒町さんぽ」を印刷する際に、印刷費の 10,000 円も出せないと言われたことがあり、予算をたくさん持っていると断定は出来ない。

Ｑ　企画の趣旨として、学院大学と荒町の連携を掲げていらっしゃるが、実際の企画の内容を聞くと、動画制作の講座という風に聞こえ、学院大学と荒町の連携という部分がぼやける印象を受けるが、そこについてご回答いただきたい。

Ａ　動画は切り口のひとつと考えていて、それをきっかけに人が集まることを考えているものである。

Ｑ　荒町のＣＭを作り、ＣＭ大賞に応募するとのことだが、果たしてそれに助成金を投入してよいのかという疑問を抱いている。ＣＭ制作で荒町をＰＲするということと、制作者についての今回の助成金という点について、どのようにお考えなのか。

Ａ　ＣＭについては、「荒町のまち」を紹介するのではなく、「五橋キャンパスが出来上がることで、まちがこんなに盛り上がっている」ということを紹介したいと思っている。ＣＭを作る際には、東北学院大学にもインタビューに行くなどして、東北学院大学を核に、まちが盛り上がっている様子を伝えられるものを作りたい。

Ｑ　特定の地域ではなく、若林区内に広めようというような考えや疑問はなかったか。

Ａ　最終的に仙台のまちの動画の聖地にしたいと思っているので、地域を超えていろんな人たちが集まってくる場になればいいなと思っている。今までは荒町の動画しか作らない、荒町のフリーペーパーしか作らないとしていたが、そこの垣根がなくなり、フィールドとして勉強の場になるということをイメージしていただければと思う。